

教委だより

No.443



令和7年12月22日

編集発行 富山県教育委員会
発行人 教育企画課長

とやま科学オリンピック2025

とやま科学
オリンピックHP



今年で14回目を迎えた「とやま科学オリンピック2025」は、中学校部門が8月2日(土)に富山中部高校、高岡高校の2会場で、高校部門が8月8日(金)に富山大学理学部で開催され、計348名の児童生徒(中学校部門194名〔小学生9名含む〕、高校部門154名〔中学生6名含む〕)が参加しました。

高校部門では今大会より、3～6人のチームで挑む「総合戦」と2人1組で挑む「個別戦」に分けて実施しました。総合戦では、午前中に筆記問題、午後からは物理、化学、生物の実験問題と1日にわたる大会となりましたが、チームの友達と教え合い、助け合って難問に挑む姿が見られました。

参加者のアンケートでは、「限られた情報から順序を踏んで答えを求めていく問題がとても面白かった」、「チームで協力しながら問題を解くのが楽しかった」、「実験問題が本格的で、とてもワクワクするものだった」、「問題の難易度が高く、解けたときに爽快感があった」という感想がありました。

中学校部門の成績上位6名は、12月中旬に兵庫県で開催された「科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場しました(大会の様子は3月号に掲載予定)。また、高校部門総合戦で優勝した高岡高校「いもけんぴ」チームのみなさんは、3月に茨城県で開催される「科学の甲子園全国大会」に出場します。富山県代表として、全国の舞台で活躍されることを期待しています。



中学校部門



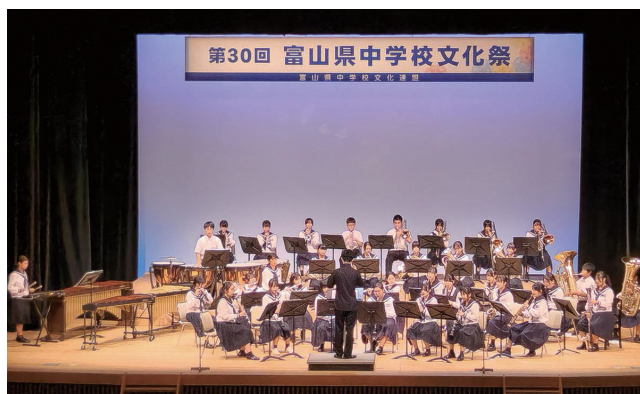
高校部門(化学)



高校部門総合戦表彰式(県庁)

第30回 富山県中学校文化祭

「富山で開け 芸術の『扉』 さあ行こう 新たな世界へ」のスローガンのもと、10月5日に「第30回富山県中学校文化祭」が富山県民会館で開催されました。県内の中学校及び義務教育学校、特別支援学校の生徒が、音楽や郷土芸能、放送、美術等9部門で日頃の活動の成果を発表しました。会場を訪れた観覧者は、みずみずしい感性があふれる作品やステージ発表に見入っていました。



早月中学校・滑川中学校生徒による吹奏楽演奏



堀川中学校生徒による演劇

第37回 富山県高等学校文化祭

第37回富山県高等学校文化祭が11月7日～9日を中心会期として、富山県民会館をメイン会場に開催されました。今年のテーマ「伝統と革新のハーモニー 青春は無限大!!」には、受け継がれてきたものを大切にしながらも、高校生らしい視点や表現を加えることでさらに輝くものという思いが込められています。日々文化活動に励む高校生の創造性あふれる作品展示やステージ発表は、会場を訪れた観覧者を魅了しました。



吹奏楽専門部「合同演奏～高文祭スペシャルバンド～」



茶道専門部「交流茶会」

夜間中学開校に向けて

県教育委員会では、昨年度のアンケート調査での、夜間中学設置に対する肯定的な意見を受け、県立夜間中学設置の準備を進めています。

夜間中学とは、「様々な理由により義務教育を修了できなかった方や、病気や不登校などで十分に学校で学ぶことができなかった方、また、母国で義務教育を修了していない外国籍の方などが学ぶことができる学校」です。

現在、全国41都道府県に61校の公立夜間中学が設置されており、北陸では今年度、石川県立あすなろ中学校が10代から70代まで22名の生徒を迎えて開校しました。来年度は福井県立若杉中学校が開校します。富山県では、「誰一人取り残すことなく、全ての多様な生徒にとって、包摂的かつ公平で、安心して学び続けることができる夜間中学」を目指し、令和9年4月、雄峰高校内での開校に向けて準備を進めています。

今年度は、5～7月に入学対象者とその関係者を対象としたアンケート調査を、6月には富山市と高岡市の2会場で夜間中学の説明会・個別相談会を行い、多くの入学対象者、その関係者の方にご参加いただきました。その中で、「ぜひ入学したい(入学させたい)」という思いはもちろん、夜間中学に対して、様々なご意見やご質問をいただくことができました。

今後は、説明会・体験授業を行い、秋頃から生徒募集を開始する予定としています。県立夜間中学について一人でも多くの人に知ってもらうことで、学び直しをしたいと願う方々を「誰一人取り残さない」よう努めたいと考えています。



詳しくはこちらから

富山県立夜間中学校の校名が、

とやまけんりつ こし ちゅうがっこう
富山県立 高志のあかり 中学校 になりました。

この校名には、「安心して通うことのできる明るくてあたたかい居場所となってほしい」、「生徒のみなさんが、将来や社会生活に「明るい光」を見出してほしい」との思いが込められています。

今後、正式に名称として決定する予定です。

令和7年度 教育功労者等表彰式

11月4日(火)、令和7年度富山県教育委員会教育功労者等表彰式が、県民会館バンケットホールで行われました。この表彰は、学校教育や社会教育、文化やスポーツの分野で優れた業績をあげた方を表彰するもので、今年度は、55個人と14団体が選ばれました。

廣島教育長は式辞で、『教育県富山』として全国に誇りうる教育を展開しているのも、ひとえに、皆様の比類ない使命感と不断の努力の積み重ねに負うところが大きい」と功績をたたえられました。

受賞者の皆様の、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



とやまの小・中学生ライフプラン教育充実事業

県教育委員会では、子供たちが富山で働き、暮らし、子育てするよさを知り、自分のライフプランを考えることができるよう、小・中学校等の授業におけるライフプラン教育用デジタルブックの活用や「ライフデザインセミナー」(地域で活躍する方の講話)、「乳幼児ふれあい体験」の実施を通して、ライフプラン教育の普及・充実を図っています。

「ライフデザインセミナー」を受けた児童生徒からは、「どの仕事にも人の役に立つという共通のやりがいがあることを知った」「自分が住む地域をよくするためにがんばろうという気持ちになった」などの感想が聞かれました。また、「乳幼児ふれあい体験」を実施した学校からは、「生徒は出産や育児の話聞き、育児の大変さや素晴らしさを感じるとともに自分を大切に育ててくれた家族へ感謝の気持ちをもつことができた」「生徒は赤ちゃんに触れ合うことで命の尊さや大切さを感じていた」との報告がありました。

今後も本事業を継続し、県内の小・中学生がライフプランについて考える環境を整えていきたいと考えています。



育休体験記 No.2 高岡市立五位小学校 亀井 英喜 先生に聞きました！

育休期間：令和7年4月～9月（生後2か月～7か月）

育休をとろうと思ったきっかけを教えてください

妻の妊娠が分かり、早い段階から「育児休暇を取ってほしい」と妻から相談され、育休を取ることに決めました。

育休中の生活について教えてください

育休中は、家事全般のほとんどを私が担当し、妻には子供の世話以外の負担がかからないよう心がけました。また、子供が昼寝をするタイミングに合わせて交代で外出するなど、互いに一人になる時間をつくり、リフレッシュできるよう工夫しました。

育休を終えた今の気持ちをお聞かせください

仕事に復帰してから、子供と過ごした時間がいかに貴重だったかを改めて実感しています。少しずつ表情が豊かになり、できることが増えていく子供の姿を間近で見守ることができたのは、何にも代えがたい大切な時間でした。

これから育休をとろうと思っている方へ一言

育休を取る前は、どんな毎日になるのか想像がつかず、不安に思うこともあるかもしれません。しかし、「取ってみようかな」と迷っておられるなら、ぜひ長めに育休を取ることをおすすめします。きっと、かけがえのない時間になりますよ！

貴重な体験談、ありがとうございました！

総合教育センター *NOW*

センターNews

未来へつながる一歩。広報誌「所報」がペーパーレスに!



令和7年10月発行の「所報147号」より、紙での配布を終了し、センターウェブサイトでの公開に一本化しました。ウェブサイトでは所報の最新号はもちろんのこと、バックナンバーも閲覧可能です。カラーで見やすくなった所報を、ぜひご覧ください。

センターウェブサイト

教育研修部

教え育てるミドルリーダーとして「共に育つ」年次交流研修を通して

学校現場を動かすリーダーとして、ミドルリーダーには「教え育てる」視点が求められています。その一環として、若手教員(2年次)と中堅教員(10年次)の年次交流研修を実施しました。研修では、中堅教員が学習指導、学級・ホームルーム経営等、若手教員の戸惑いや悩みについて熱心に解決を図ろうとする姿が見られました。現場は仕事内容が多岐にわたって対応も複雑になり、常に配慮を要することが多くなっています。それを踏まえてグループの話し合いは、中堅教員が前向きに話を進める役割をしっかりと果たしつつ、「聴く、共感する」そして「自分の経験から語る」など、若手教員をサポートする時間になりました。若手教員にアドバイスが必要と思われるところをタイミングよく見極めて助言しながら、自らも新たなことに気付いていく、共に解決を考える姿勢こそが、信頼されるリーダーの第一歩です。任されるリーダーから信頼されるリーダーへと成長し、学校というチームの核となることを実感するよい機会になりました。

若手教員を育てながら自らも育つ、そんな伴走型のリーダーシップが、これからの学校づくりの鍵となります。年次交流研修を通して、互いに学び合い、支え合い、次の世代へとつなぐと同時に、自分自身の成長を振り返り、「共に育つ」喜びを実感できるよう支えていきます。



若手教員と語り合う

科学情報部

理科に関する生徒実習

～学校ではできない観察・実験にチャレンジしよう!!～

科学情報部理科教育室では、学科・コースの専門性に応じた発展的な学習内容を深めるため、学校での実施が難しい観察・実験を行っています。実習は、物理・化学・生物・地学の4分野の中から午前・午後に1つずつ選択して合計2分野にわたって実施しています。

今年度は7校から申込みがあり、合計205名の生徒が実習に参加しました。

対 象 県立高等学校探究科学科、普通科(自然科学コース)、看護科等

期 間 7月または12月の1日

実習内容 【物理実習】光の回折と干渉による光ディスクのトラックピッチの測定

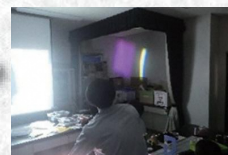
可視光線の波長の測定、空き缶分光器の製作

【化学実習】燃料用アルコールの分留と定量、食品中のビタミンCの定量

水に溶解している各種イオンの定量、医薬品の合成と定性分析

【生物実習】カエルの反射行動の観察と解剖、血球・筋肉の観察

【地学実習】微化石の採集と標本作り、アンモナイトの形態解析



物理実習
(プリズムの実習)



化学実習
(機器による分析)



生物実習
(解剖実習)



地学実習
(微化石観察)

教育相談部

児童生徒支援に向けた保護者との関係づくり研修会

児童生徒の成長に向け、保護者の役割を尊重した協働的支援のあり方を考え、保護者とのコミュニケーションや信頼関係の構築、相互理解などの促進をねらいとして、信州大学 教授 上村 恵津子氏に「児童生徒支援のパートナーとしての保護者との連携」の演題で講演をしていただきました。

研修会では、合意の形成に向けて、話を聞く時の基本スタンスの確認や相手の意見の背景を理解する必要性などを学び、教員への信頼レベルを向上させるにはどのようなことがポイントになるのかということについて、「ワールド・カフェ」を使って意見交換を行いました。

研修後の振り返りでは、「保護者の方は子供のことをたくさん考え、思っている。その背景にも目を向けたり、心理的事実に共感したりしながら保護者との連携に努めていきたい」、「今までの自分は『合意』だけを求める対応になりがちであったが、『合意』を形成するプロセスこそが大切であり、両者の信頼レベルを向上させていくことが大切であると学んだ」という声が聞かれました。

学んだことを活かし、保護者と一層連携して児童生徒支援に励む教員のサポートに、これからも努めていきたいと思います。



「ワールド・カフェ」の様子

令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査

— 暴力行為・いじめ・不登校 —

文部科学省の「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果（県内国公立学校分）が、10月に公表されました。＜文部科学省の公表データのみ記載＞

【暴力行為の発生件数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの発生件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
R 6	1,324 (29.1) (国13.8)	488 (19.8) (国12.6)	53 (2.1) (国1.8)	1,865 (19.7) (国10.4)
R 5	871 (18.8) (国11.5)	452 (17.9) (国10.4)	56 (2.2) (国1.7)	1,379 (14.2) (国8.7)

暴力行為の発生件数は、R5年度と比べ、小学校と中学校で増加しました。1,000人当たりの発生件数は、全ての校種で全国平均を上回っています。

【いじめの認知件数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの認知件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	特別支援学校	合 計
R 6	2,056	751	109	35	2,951 (30.7) (国61.3)
R 5	2,168	764	133	35	3,100 (31.6) (国57.9)

いじめの認知件数は、R5年度と比べ、小学校、中学校、高等学校で減少しました。県全体の1,000人当たりの認知件数は、全国平均を下回っています。

【不登校児童生徒数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの不登校児童生徒数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校
R 6	1,106 (24.3) (国23.0)	1,518 (61.7) (国67.9)	558 (23.4) (国23.3)
R 5	1,110 (24.0) (国21.4)	1,531 (60.7) (国67.1)	614 (25.1) (国23.5)

不登校児童生徒数は、R5年度と比べ、全ての校種で減少しました。1,000人当たりの人数は、小学校と中学校で増加し、小学校と高等学校は全国平均を上回っています。

日ごろから規範意識の醸成や自己肯定感の向上、教育相談体制の充実等の取組により、問題行動や不登校の未然防止を図るとともに、児童生徒をきめ細かく見守り、家庭や専門家、関係機関と連携して早期発見・早期対応に努めることが大切です。

お知らせコーナー

とやまこどもサミット

ー昨年開催された「G7富山・金沢教育大臣会合」の公式サイドイベント「富山・金沢こどもサミット」で採択された宣言書の趣旨に沿った取組について、県内の子どもたちが発表します！

日時 令和8年1月31日（土）13:00～16:00
会場 富山大学五福キャンパス
内容 ポスターセッション形式による発表、参加者同士の意見交換
参加者 県内小・中・高・特別支援学校に在籍する児童生徒

一般の方の参観は自由です。
 子どもたちの発表をお聞きいただき、たくさんのご意見や感想をお願いします！
 （事前申込み不要）



「とやまこどもサミット」のホームページは
[こちら](#)から

＜お問い合わせ＞
 教育企画課 企画係 TEL(076)444-4583

とやま探究フォーラム とやまDXハイスクールフォーラム

各学校で進めている探究的な活動の成果を発表する「とやま探究フォーラム」を富山大学と共催で開催します。

また今年度は、デジタルをフル活用した取組の成果を発表する「とやまDXハイスクールフォーラム」を同時開催します。

日時 令和8年1月31日(土)12:50～16:30（予定）
会場 富山大学五福キャンパス
内容 ポスターセッションやプレゼンテーションによる発表、生徒交流会、教員等交流会

＜お問い合わせ＞
 教育みらい室 県立高校課 高校教育担当 TEL(076)444-3450

「とやまこどもサミット」「とやま探究フォーラム」「とやまDXハイスクールフォーラム」は同日、同会場で開催されます。それぞれの発表者、参観者が自由に行き来し合い、どちらの発表もお聞きいただき、意見交換ができればと考えています。
 多くのみなさんのご来場をお待ちしています。